

学位論文審査の要旨

学位申請者	洪 春子 比較社会文化学専攻2017年度生		論文題目	中国語と韓国語を母語とする日本語学習者の「切る・割る」事象における語彙カテゴリーの習得
審査委員	主 査:	森山 新 教授	インターネット公表	学位論文の全文公表の可否 : 否
	副 査:	西川 朋美 准教授		「否」の場合の理由
	副 査:	伊藤 さとみ 教授		<input type="checkbox"/> ア. 当該論文に立体形状による表現を含む
	審査委員:	櫻井 勇介 講師		<input type="checkbox"/> イ. 著作権や個人情報に係る制約がある
	審査委員:	佐治 伸郎 准教授 (鎌倉女子大学)		<input checked="" type="checkbox"/> ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている
学位名称	博士 (人文科学)		<input type="checkbox"/> エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている	
(英語名)	(Ph. D. in Linguistics)		<input type="checkbox"/> オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている	※本学学位規則に基づく学位論文全文のインターネット公表について

学位論文審査・内容の要旨

本研究は韓国語、中国語を母語とする日本語学習者(KJLとCJL)を対象に、第二言語(L2)としての日本語の「切る・割る」事象の語彙カテゴリーの習得における学習者共通の特徴と母語(L1)の影響を明らかにすることを目的として行われた。「切る・割る」事象に関し、KJLのL1とL2は類似点が多いが、CJLのL1とL2は相違点が多い。データは、「切る・割る」事態を表した36の動画を見ながら、それが表す事態を口頭で発話することで収集された。

研究1では「切る・割る」事象を取り上げ、中国語や韓国語と日本語とのカテゴリー化の異同、研究2では中国語や韓国語をL1とする上級学習者のL2としての日本語の習得、研究3では習得に及ぼすL1の影響について扱った。

その結果、研究1では中国語が最もカテゴリー化が複雑で、日本語、韓国語は中国語に比べてカテゴリー化が単純であった。また、「割る」系動詞の語を使い分ける基準は、日本語と韓国語は類似しているが、中国語とは異なっていた。研究2では学習者共通の特徴として、先行研究と同様、学習者には使用範囲の広い語の過剰使用と特定の場面にしか使われない語の過少使用が見られた。また、KJLはCJLより「割る」系動詞の語の使い分けをよく習得した。研究3では、L1の影響として、語彙数においてはL1の語彙カテゴリーの細分化の程度の影響がなく、語の使用範囲については、先行研究と同様にL1の対応語による影響が見られた。さらに語の使い分け方については学習者はL1とL2の共通する語を使い分ける際の大まかな分類基準(裁断面の予測可能性)はよく習得していた(L1の正の転移)ものの、L1とL2の語彙カテゴリーの分類基準が異なる場合、習得が非常に困難な様子が見受けられた。

また、このようなL1とL2の語彙カテゴリーの異同による影響の結果は、「修正階層モデル」を支持するものであった。

本研究により、L1とL2の語彙数、語の使用範囲、語を使い分ける基準の3つの側面における異同の中で、語彙数の影響が最も小さく、語を使い分ける基準の影響が最も大きいことが新たに明らかになった。

審査は二度実施された。第一次審査は2020年11月26日に実施された。審査では、先行研究を踏まえての総合的考察、日本語教育への示唆などに改善の余地があることが指摘された。申請者はそれらのコメントを踏まえて修正を行った。結果、審査委員全員から、公開発表会、最終試験に進んでよいとの判定を得た。

最終試験は2021年1月28日(木)に公開発表会、最終審査会を実施した。公開発表会はコロナ禍のためオンラインで実施され、30名を越える参加者のもと、40分の博論に関する発表と、それに関する約20分間の質疑応答とが実施された。申請者は、博論の内容をわかりやすく説明し、その後の質疑応答でも、質問者からの質問に対し、丁寧かつ的確に回答していた。

公開発表会の後に実施された最終審査会は、第一次審査でのコメントを踏まえての修正原稿の内容、及び公開発表会での発表・質疑応答の内容が審査された。

その結果、本研究は、「切る・割る」系事態に関する言語間(中国語・韓国語・日本語)の概念化の異同、L2としての日本語とそれに関する概念(カテゴリー化)の習得、さらにL2習得に与えるL1の影響などについて、これまでになく様々な知見を多数得ることができたと評価され、博士(人文科学)(Ph. D. in Linguistics)の学位が付与されることが満場一致で承認された。